



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

6月号—No.349

2024.5.25

(毎月1回25日発行)

【昆布茶(こぶちゃ)】海藻のコンブのようなやや暗い黄味がかった茶色。

江戸時代のトレンドカラー「四十八茶百鼠」のひとつ。コブチャからコビチャに転じ、「媚びる」という漢字を当てた別名「媚茶」が媚びるような色っぽい色として流行した。ちなみに江戸時代の昆布茶は刻み昆布に熱湯を注いで飲むものだったが、大正時代になって玉露園が初めて粉末の「こんぶ茶」を発明し、売り出した。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

令和6年度公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)全体研修会報告

財団からのお知らせ..... 4

地域創造フェスティバル2024開催のお知らせ／令和6年度地域創造大賞(総務大臣賞)募集開始時期について／令和5年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ／令和6年度地域創造セミナースタート／令和6年度市町村長特別セミナー報告

今月の情報..... 6

地域通信

今月のレポート..... 12

大阪府茨木市 茨木市文化・子育て複合施設おにクル
「ベイビー&キッズシアターフェス」

2年目の登録アーティストが充実したプレゼンを披露

令和6年度 公共ホール 音楽活性化事業 全体研修会

2024年4月22日～24日



写真

左上: 多田淳之介さんのワークショップ

右上: 「ホールと地域の仲を取り持つ『おんかつ』」(大澤寅雄さん)

左下: 登録アーティストプレゼンテーション(カメラ)

右下: 登録アーティストプレゼンテーション(閑喜弦介さん)

●2023・2024年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト

- 今田篤(ピアノ)
- 水谷桃子(ピアノ)
- 上田純子(ソプラノ)
- 西村悟(テノール)
- 閑喜弦介(ギター)
- カメラ(パーカッションデュオ)
- Modétro Saxophone Ensemble(モデトロ・サクソフォン・アンサンブル/サクソフォン四重奏)

●公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)に関する問い合わせ
芸術環境部 日野・森永
Tel. 03-5573-4076

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)では、実施館の担当者、コーディネーターや登録アーティストが一堂に会する全体研修会を実施しています。今年度は4月22日～24日に開催、トップアンホールでは2年度目を迎えた2023・2024年度登録アーティスト7組11名による公開プレゼンテーションも行われました。

●事例紹介で担当者の生の声にふれる

研修初日は、定番となっている参加館の担当者に向けたワークショップでスタートしました。ファシリテーターは昨年に続き、地域創造のリージョナルシアター事業派遣アーティストで、おんかつコーディネーターでもある演出家の多田淳之介さんです。身体を使ったシアターゲームなどで交流を図った後、おんかつについての事業説明や事例紹介が行われました。

事例紹介では、令和4年度におんかつ(派遣アーティストはソプラノの梅津碧さん)、令和5年度におんかつ支援(派遣アーティストはヴァイオリンの石上真由子さん)を実施した広島県の海田町教育委員会の田村恵里さんとコーディネーターの桜井しおりさんから報告が行われました。

海田町では、老朽化した公民館を移転・新

築し、体育館としても使用できる可動式ホール(503席)を有する「織田幹雄スクエア」を2020年に開館。同町で初めてとなるホールと新しい施設を町民に周知し、音楽に親しむきっかけにしたいと、おんかつに参加。当初から支援まで継続する予定だったそうです。

事業当時、副担当だった田村さんは、おんかつは楽しいと前置きした上で、「そもそもスポーツ担当で、おんかつが“何を伝えるか”“どう考えてどう実施していくか”をしっかり落とし込んだ上で進めることが求められる難易度の高い事業という認識がありませんでした。誤解を恐れずに言うなら千本ノックを受けているような状態でした」と当時の主担当(野村さん)の言葉とともに振り返っていました。研修会を経て、若い世代に来場してもらうことを目的に、企業や事業所をアクティビティ先に組み込んで飛び込みで交渉。また、ホールの音響調整にも四苦八苦するなど、目の前の課題を一つひとつ乗り越えていったそうです。

「全く違う世界の人だと感じていたアーティストも、一緒にコンサートをつくっていくパートナーだと思えるようになりました。失敗してもコーディネーターがフォローしてくれますし、担

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

当事者が一生懸命であれば周囲の人が応えてくれる。おんかつは反省の連続ですが、その反省を踏まえて次のステップに進めるよう継続することが重要だと思います」と、参加者にエールを送っていました。

また、2日目にはおんかつアドバイザーの大澤寅雄さん(合同会社文化コモンズ研究所代表)によるレクチャーが行われ、地域創造が令和5年度に実施した「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果の検証と評価に関する調査研究」(*)を紹介しました。

●登録アーティスト2年目の公開プレゼン

公開プレゼンテーションには6組10名の登録アーティストが出演し、各25分のショーイングを行いました。トップバッターは永野雅晴・仁美さん夫妻によるパーカッションデュオのカメハです。昨年度3地域でおんかつを行ったカメハは、氷見市で初めて挑戦した0歳からのコンサートに多くの子育て世代が来場して驚いたといったエピソードを交えながらタンバリンやトライアングルなど馴染みのある楽器の曲を披露。最後は、「アンサンブルの楽しさを伝えたくて、アウトリーチの最後に演奏している」というE.セジオルネの大曲『ハムシン(砂嵐の意)』(マリンバの両端にカスタネットを置き、白鍵側と黒鍵側から2人で演奏)で締めくくりました。

神戸市出身の水谷桃子さん(ピアノ)は関西弁を交えて、ピアノの名手として知られるシューマンやショパン、リストの曲と古の奈良を題材にした『ムジカ・ナラ』を披露。モデトロ・サクソフォン・アンサンブル(サクソフォン四重奏)は手書きのカードなどを用いてメンバーの親しみやすさをアピール。昨年も芝居仕立ての「歌のレストラン」を披露した西村悟さん(テノール)は、幼稚園・保育園でのアウトリーチで実践したという視覚でも楽しめる工夫を加えたレストランを開店していました。

作曲家、編曲家としても活動する閑喜弦介さん(ギター)は「参加といっても、楽譜が読めない、楽器が演奏できないなど、能動的に演奏することはほとんどない。現代音楽には図形譜と

いう楽譜があり、音具を使ってこれを子どもたちと一緒に演奏したいと思っている」と、参加者を巻き込んだ実演で熱い思いを伝えていました。最後は今田篤さん(ピアノ)が締めくくり、自然体のトークを交えて、ラフマニノフ、シューベルトを披露し、『トルコ行進曲』をモーツァルト版、ジャズ風に編曲したファジル・サイ版、超絶技巧のアルカディ・ヴォロドス版で弾き比べ、ピアノの魅力を存分に伝えていました。

※

最終日は今年度の参加館の担当者とコーディネーター7名でアウトリーチの企画を考えるグループディスカッションを実施。担当者は予め記入した「地域資源シート」(ホールと関係がある・関係を築けそうな要素を教育・福祉・歴史・文化・食・観光・産業・その他の領域について整理するシート)を踏まえて、企画づくりに臨みました。

今年度のおんかつ事業は秋から本格的に始まります。詳細は当財団ホームページやレターで発表しますので、ぜひ興味をもっていただければと思います。

●令和6年度公共ホール音楽活性化事業参加団体一覧(全10団体)

- 福島県西郷村
- 長野県飯山市
- 静岡県袋井市
- 滋賀県長浜市
- 兵庫県福崎町
- 島根県安来市
- 徳島県勝浦町
- 高知県香南市
- 熊本県荒尾市
- 熊本県宇土市

*「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果の検証と評価に関する調査研究」(令和5年3月)地域創造の事業「おんかつ」「ダン活」等に参加経験があり、長期的・継続的に地域の小中学校へのアウトリーチに取り組んできた調査協力館(6館)とアウトリーチ先の小中学校児童生徒、教職員へのアンケートなどを実施。

<https://www.jafra.or.jp/library/report/>

●令和6年度公共ホール音楽活性化事業全体研修会スケジュール

	4月22日(月) 地域創造 会議室	4月23日(火) 地域創造 会議室/トッパンホール	4月24日(水) 地域創造 会議室
10:00		「ホールと地域の仲を取り持つ『おんかつ』」 大澤寅雄	「グループ別企画検討」 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
11:00			
12:00			
13:00	オリエンテーション	「グループワーク～これまでのゼミを振り返って～」	「企画発表」 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
14:00	「ワークショップ」 多田淳之介	プレゼンテーションの聴き方	
15:00			「フィードバック」
16:00	「“おんかつ”とは」 仕田佳経	2023・2024年度登録アーティスト公開プレゼンテーション(出演順) ●カメハ ●上田純子(映像出演) ●水谷桃子 ●モデトロ・サクソフォン・アンサンブル	事務連絡/閉講式
	事業概要・実務説明	●西村悟 ●閑喜弦介 ●今田篤	
17:00	「事例紹介～事業担当者編～」 田村恵里、桜井しおり		
	「事業担当者の役割」菊地俊孝		
18:00			
19:00		交流会	

財団からのお知らせ

●地域創造フェスティバル2024開催のお知らせ

地域創造が取り組んでいる事業を紹介し、公共ホールや自治体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に、「地域創造フェスティバル2024」を昨年度に引き続き3日間の日程で開催します。

地域創造の登録アーティストや、全国各地の公共ホールや自治体の文化担当の方々が多数来場されますので、ネットワークづくりや情報交換の場としてもご活用いただけます。ぜひご参加ください。

出演者情報等のプログラム詳細および参加者募集につきましては、次号(7月号)でご案内します。

●地域創造フェスティバル2024概要

【日程】7月29日(月)～31日(水)

【会場】東京芸術劇場(豊島区西池袋1-8-1)

【プログラム】

- シンポジウム「アウトリーチから改めて考える文化芸術の役割」(令和5年度調査研究事業報告)
- 公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)のプレゼンテーション
- 公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)のプレゼンテーション
- Jafra テーブルトーク 2024(音楽・演劇テーマ別ディスカッション)
- 助成要綱・事業に関する説明会
- 情報交換会

【同時開催】

都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議

●令和6年度地域創造大賞(総務大臣賞)募集開始時期について

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。平成16年度から令和5年度までの20年間で143施設が受賞しました。

実施要領・応募書については、5月下旬に当財団のウェブサイトに掲載する予定です。ご応募をお待ちしています。

●令和5年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ

令和5年度の各事業報告書を当財団ホームページで公開しています(PDF版を閲覧・ダウンロード可能です)。

「財団のご案内」→「事業報告書・事業計画書等」
<https://www.jafra.or.jp/about/report.html>

地域創造が運営しているホームページは、地域の文化・芸術に関する情報をより広く提供することを目的に、当財団の概要・事業紹介のほか、地域創造レターや調査研究報告書を掲載し、地域の最新の動向・活動等をお伝えしています。また各事業の実施要綱や申請書、様式をダウンロードすることもできます。

地域における文化・芸術活動の情報収集、公立文化施設の活性化や芸術環境づくりにぜひご活用ください。

●地域創造フェスティバルに関する問い合わせ
芸術環境部 児島
Tel. 03-5573-4183

●地域創造大賞(総務大臣賞)に関する問い合わせ
芸術環境部 今野・林
Tel. 03-5573-4066
taishou@jafra.or.jp



昨年の地域創造フェスティバル(シンポジウム「アウトリーチの今とこれから」)

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和6年度地域創造セミナースタート

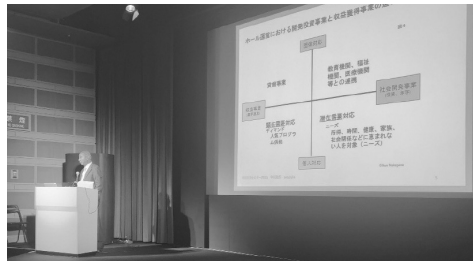
文化・芸術による創造性豊かな地域づくりと文化芸術関係者の広域的な連携強化のため、地域創造が都道府県主催のセミナーへ講師を派遣する地域創造セミナーがスタートしました。

今年度第1回は4月12日に、埼玉県の彩の国さいたま芸術劇場で開催され、帝塚山大学名誉教授で自治体文化政策の第一人者である中川幾郎さんに「自治体文化政策に求められている地域創生の視点」というテーマでご講演いただきました。

現代における公立文化施設の役割や文化事業を実施する上で欠かせない視点など、文化政策の基礎や文化芸術による地域振興を行う特徴的な取り組みを具体例を交えて紹介。観光・まちづくり・福祉・教育などの地域の課題に対して文化政策はどのようにアプローチできるのか、自治体文化政策の柱となる要素を交えながら説明がありました。

またセミナー後に、約1年半の大規模改修を終え、今年3月1日にリニューアルオープンした彩の国さいたま芸術劇場の館内ツアーが実施され、実際に大ホールの舞台上などを見学しながら、劇場担当者から改修ポイントの説明などがあり、公共文化施設のハード面も学ぶことができるセミナーとなりました。

今年度の地域創造セミナーは秋田県、愛知県、徳島県でも開催の予定です。



地域創造セミナー埼玉の様子(講師:中川幾郎氏)

●地域創造セミナーに関する問い合わせ

芸術環境部 今野
Tel. 03-5573-4066

●市町村長特別セミナーに関する問い合わせ

芸術環境部 内田
Tel. 03-5573-4185

●令和6年度市町村長特別セミナー報告

地域創造では、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくため、全国の市町村長を対象とする市町村長特別セミナーを実施しています。

4月25日に、市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)との共催により、文化・芸術による地域づくりについての講義とおんかつ支援登録アーティストによるミニコンサートを実施しました。

講義は「地域を変えるアートのチカラ～地域芸術祭を中心として～」と題し、株式会社アートフロントギャラリー代表の北川フラムさんが登壇しました。北川さん自身が総合ディレクターを務める5つの芸術祭について、芸術祭が持つ意味と、芸術祭が地域においてどのような役割を果たすのか、実際に展示されたアート作品を紹介しながら、わかりやすく講義いただきました。

北川さんから、芸術祭において、地域の資源を活用した作品をアーティストが制作することを通して地域の魅力を見せていく。そうすることで、地域はすべて違う、すべての地域が独自であることを示すことができる。そして、地元の人々の、地域に対する“プライド”が醸成されていくとのお話がありました。また、「瀬戸内国際芸術祭」では、開催期間

の約100日間で、国内外の延べ8,000人のサポーターが無償で協力しています。やがていつかは自分の地域でも芸術祭を行いたい、という気持ちから参加をしているサポーターもいるそうです。

今回の講義では、アートを通じて人と人、場所と場所を繋ぐ、地域の資源を活用した芸術祭についてご紹介いただきました。世界はIT・AIの発展により均質化の傾向があり、その土地特有の歴史や文化がなくなってしまう恐れがある。そんな中、地域の伝統や文化、自然、生活などの資源をアートとして創作、発信し、色々な人に知ってもらうということは、地域を守るためにとても有効であり、社会問題をも解決できる可能性を秘めた芸術祭の意味や役割について、知見を広める貴重な機会となりました。

講義に続いて、地域創造おんかつ支援登録アーティストの小林厚子さん(ソプラノ)によるミニコンサートが行われました。コンサートでは、歌唱する曲目を、その曲の背景にふれながら紹介するとともに、受講者と一緒にオペラのワンシーンを再現するなど、受講者とコミュニケーションを取ることで、受講者はより音楽への興味を引き立てられました。

また、プログラムの中で、受講者と一緒に

『ふるさと』を歌いました。誰もが知っている曲を、改めてプロの声楽家から発声方法を学び歌うことで、最初は戸惑っていた受講者も、後半は楽しみながら歌っていました。小林さんの力強い歌声にも引き込まれ、会場全体が一体感に包まれるミニコンサートとなりました。



上:北川フラムさんによる講義/下:小林厚子さん(ソプラノ)によるミニコンサート(ピアノ伴奏:藤原藍子さん)

地域通信

●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 和田・今野

●2024年8月号情報締切

6月21日(金)

●2024年8月号掲載対象情報

2024年8月～10月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌芸術の森美術館

〒005-0864 札幌市南区芸術の森2-75

Tel. 011-591-0090 菊池さくら

<https://artpark.or.jp/>

遠藤彰子展 生生流転

「人間の存在」や「今生きている実感」といった普遍的なテーマを描く画家・遠藤彰子(1947～)の展覧会。身の周りの環境や出来事を題材にした初期の「楽園シリーズ」、画家として飛躍のきっかけとなった「街シリーズ」、大画面に描く「大作シリーズ」を中心に、75点の作品を紹介しながら彼女の半世紀にわたる活動の軌跡をたどる。期間中は学芸員によるギャラリートツアー、遠藤を講師に迎えた自画像を描くワークショップも開催。

[日程]4月6日～6月16日

[会場]札幌芸術の森美術館

●北海道旭川市

北海道立旭川美術館

〒070-0044 旭川市常磐公園内

Tel. 0166-25-2577 津田しおり

<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj/>

アートのなかの朝・昼・夜 —時間と光のうつろい—

目に見えない時間に焦点を当てた展覧会。所蔵品の中から、上野憲男による朝の静謐な空気を描いた絵画や、東谷武美による氷やガラスに透過する光を日蝕に見立てた版画など、時間や光のうつろいをモチーフとした作品を中心に、「朝」から「昼」、そして「夜」へと移りゆく構成で紹介し、作品の中に流れる時間と光のうつろいを感じることができる。学芸員の見どころ解説など関連イベントも開催。

[日程]4月27日～6月23日

[会場]北海道立旭川美術館

●青森県青森市

AOMORI GOKAN アートフェス2024 実行委員会

〒038-0021 青森市安田字近野185(青森県立美術館内)

Tel. 017-783-3000 蓑島・櫻庭

<https://aomori-artsfest.com/>

AOMORI GOKAN アートフェス2024

県内にある現代美術を楽しめる5つの美術館・アートセンターを中心に開催。2020年より5館が連携し、県民や観光客が青森のアート体験とともに、地域の周遊を喚起する「5館が五感を刺激する AOMORI GOKAN」プロジェクトを発信。本アートフェスでは展覧会やパフォーマンスなど、この地に根差して活動する各館のキュレーターが協働し、アートを起点に県内各地域にある自然や食など豊かな文化にふれることを通じて、青森の魅力を再発見する。

[日程]4月13日～9月1日

[会場]青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館

●宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館

〒985-0052 塩竈市本町8-1

Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加

<https://sugimurajun.shiomo.jp/>

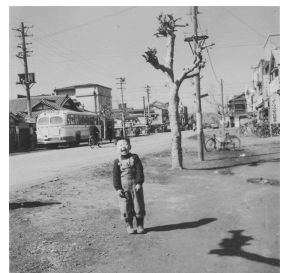
まちの きおくを あつめる、 かたる —築港の記憶—

洋画家・杉村惇が塩竈に住んだ昭和20～30年代を軸として、市民より収集した塩竈の写真やエピソードなどを基に展示を行うシリーズ第6弾。今回は「築港」(現在の塩竈市港町あたり)についての人々の記憶を取り上げ、人々が語る音声エピソードを中心に紹介。また、関連企画「昭和レトロな髪型きせかえ」では当時流行っていた髪型にヘアチェンジできる撮影ブースを設け、

活気にあふれた築港の記憶を疑似体験できる。

[日程]4月29日～6月9日

[会場]塩竈市杉村惇美術館



昭和30～35年の塩竈市築港(現・港町)
写真提供:無量井英二

●秋田県横手市

秋田県立近代美術館

〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46(秋田ふるさと村内)

Tel. 0182-33-8855 鈴木京

<https://akita-kinbi.jp/>

開館30周年記念コレクション展 第1期「美術館であいましょう」

今年4月に開館30周年を迎えた同美術館の全3期にわたる記念コレクション展。1期は、これまでに収集してきた作品をその過程や歴史について年代ごとに紹介することで、収集の足跡が感じられる展示となっている。本展を通じ、美術館での作品収集自体についても興味をもってもらい、今後どのような作品が収集されていくのか、想像してもらう機会としても期待している。2期、3期についても秋田ゆかりの名品を展示予定。

[日程]4月11日～7月1日

[会場]秋田県立近代美術館

●山形県大石田町

大石田AIR

〒999-4112 大石田町緑町28

Tel. 0237-35-2094 大橋武司

<http://niji.town.oishida.yamagata.jp/>

大石田AIR特別公演「井上ひさし ぶり」井上ひさし×2つのダンス作品

虹のプラザを拠点に展開してい

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

るアーティスト・イン・レジデンス事業「大石田AIR」で、NEphRiTEdance companyとAokidの2組が滞在制作を行う。テーマは井上ひさし。未発表戯曲『うま一馬に乗ってこの世の外へ』と、寄贈蔵書を収めた川西町の遅筆堂文庫内に再現した書斎をモチーフに、『うま一』『書斎とひさし』の2作品を創作。大石田町に加え、井上の故郷である川西町でも上演するほか、同町では企画「からだワークショップ」も行う。
[日程] 6月1日、2日
[会場] 大石田町民交流センター「虹のプラザ」、川西町フレンドリープラザ

●福島県福島市

福島県立美術館
〒960-8003 福島市森合字西養山1
Tel. 024-531-5511
増淵・宮武・白木・坂本
<https://art-museum.fcs.ed.jp>

福島県立美術館開館40周年記念「福島の実家たち2024」

開館以来、福島県出身やゆかりの美術家を紹介してきた福島県立美術館が開館40周年を記念し、30年以上ぶりに開催するシリーズ企画。今回は1990年代から現在までの日本画・洋画・版画・立体・工芸の5つの分野から顕著な活動を続けてきた美術家40名を紹介する。県内外で活躍する郷土作家の作品が一堂に会する貴重な機会となるとともに、未来を担う若い世代に向けて新たなエールを贈る展覧会となる。

[日程] 5月25日～7月22日
[会場] 福島県立美術館

関東

●茨城県笠間市

茨城県陶芸美術館
〒309-1611 笠間市笠間2345
Tel. 0296-70-0011 岩井基生

<https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

魯山人クロッシング

陶芸や書、日本画、料理など幅広い分野にわたり、独自の美意識を追求したことで知られる北大路魯山人。初公開や全国的にも貴重なコレクション約70点を展示し、コレクションの来歴を示す資料やビジュアル年譜などとともに、魯山人と作品の魅力を紹介。また笠間に移築された魯山人の旧居である春風萬里荘での茶会や料理の盛り付けワークショップなども開催する。
[日程] 4月27日～7月7日
[会場] 茨城県陶芸美術館

●群馬県高崎市

群馬県立近代美術館
〒370-1293 高崎市綿貫町992-1
Tel. 027-346-5560 佐藤聖子
<https://mmag.pref.gunma.jp/>

開館50周年記念「コレクションのつくりかた／つたえかたー日本と西洋の近代美術ー」

群馬県立近代美術館のコレクション約2,100点のうち、日本近代洋画と西洋近代美術のコレクションの中から代表的な作品約100点を、それぞれの制作や収集背景を紐解く解説とともに展示する。群馬の作家たちのコレクションのほか、収蔵作品の公開や展覧会出品についての解説と、作品鑑賞をサポートするさまざまな教育ツールの開発といったコレクションのコミュニケーションについての活動も紹介。
[日程] 4月20日～6月23日
[会場] 群馬県立近代美術館

●千葉市

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311 西山純子
<https://www.ccma-net.jp/>

板倉鼎・須美子展

松戸市で幼少期を過ごし、パリで確立した斬新・華麗な作風により近年評価が高まっている夭折の洋画家・板倉鼎(かなえ／1901～29)とその妻の須美子(1908～34)。千葉市美術館では、2021年に遺族から鼎の作品33点を寄贈されたことを記念し、鼎と須美子を長く顕彰してきた松戸市教育委員会の全面的な協力の下、ふたりの画業を総覧する。展覧会では、約240点の作品に加え、書簡などの資料展示も行う。

[日程] 4月6日～6月16日
[会場] 千葉市美術館



展示の様子

●東京都目黒区

目黒区美術館
〒153-0063 目黒区目黒2-4-36
Tel. 03-3714-1201 山田真規子
<https://mmat.jp/>

青山悟 刺繍少年フォーエバー

刺繍という技法で作品を制作している目黒区出身・在住の現代美術作家、青山悟にとって初めての美術館での個展。刻一刻と変化する社会が抱えるさまざまな問題に対し、常に敏感に反応し、ミシン針でチクリと風刺を効かせる青山の作品は、刺繍は女性がするものという伝統的な男女の役割に対するジェンダーの問題も暗示する。今回は、区内の青山の出身校を描写した初期の作品から、新作や昨年度区内小学校で行ったアウトリーチの際の作品も展示される。
[日程] 4月20日～6月9日
[会場] 目黒区美術館

●東京都世田谷区

せたがや文化財団
〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1
Tel. 03-5432-1526 大下・法月
<https://setagaya-pt.jp/>

『Medicine メディソン』

アイルランド生まれの劇作家・脚本家エンダ・ウォルシュによる最新作『Medicine』を、世田谷パブリックシアター芸術監督・白井晃の演出により国内で初めて上演する。本作は、2021年8月にエディンバラ国際フェスティバルで初演、ニューヨークなどでも上演され、イギリスの新聞に絶賛のレビューが掲載されるなど演劇界を席巻。3人の俳優と1人のドラム奏者のみで繰り広げられるユーモアと不安が混在する世界は見どころ。
[日程] 5月6日～6月9日
[会場] シアタートラム

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026 調布市小島町2-47-1 (調布市グリーンホール内)
Tel. 042-481-7611 阿部珠子
<https://chofumusicfestival.com/>

調布国際音楽祭2024

2013年に「調布音楽祭」の名でスタートし、12回目を迎える今年のテーマは「MUSIC WITHOUT BORDERS」。調布出身の音楽家・鈴木優人を中心に、異なる文化や言語の壁を越えて人々が繋がることを目指す。クラシックファンの佐藤天彦九段を迎えた将棋と音楽のスペシャルコラボレーションや、振付家・黒田育世がバッハのシャコンヌに向き合い踊るダンス公演など、オリジナリティあふれるプログラムを多数予定している。
[日程] 6月15日～23日
[会場] 調布市グリーンホール、調布市せんがわ劇場、深大寺ほか

●神奈川県茅ヶ崎市

茅ヶ崎市美術館

〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸
北1-4-45

Tel. 0467-88-1177 藤川悠

<https://www.chigasaki-museum.jp/>

フランスス真悟

「Exploring Color and Space
—色と空間を冒険する—」

優れた色彩で人々を魅了し、世界的な活躍をみせる現代アーティスト・フランスス真悟の国内初となる大規模個展。観る人の角度によりさまざまに表情を変える作品として知られる代表作「Interference」シリーズほか、1980年代初期からの作品約100点を一堂に展示する。さらに本展のために当館の自然光が差し込む展示空間を生かした約10点の新作を発表。期間中はワークショップやアーティストトークなども実施する。

〔日程〕3月30日～6月9日

〔会場〕茅ヶ崎市美術館

●神奈川県葉山町

神奈川県立近代美術館

〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1

Tel. 046-875-2800 西澤晴美

www.moma.pref.kanagawa.jp/hayama

吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる

物体を組み合わせ、その特性が自然に表出されるような「もの派」と呼ばれる作風の中心作家であった吉田克朗(1943～99)。やがてもの派から離れ、実験的な手法を試みながら絵画表現を模索したが、惜しくも55歳で逝去した。本展は吉田の全貌に迫る初めての回顧展。ほとんど紹介されてこなかった作品や作品プランなどを綴った制作ノートなど、資料約170点により制作の軌跡をたどる。

〔日程〕4月20日～6月30日

〔会場〕神奈川県立近代美術館
葉山



〈触〉制作風景(1989年/撮影:馬場直樹)
©The Estate of Katsuro Yoshida /
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

北陸・中部

●新潟市

新潟市芸術文化振興財団

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2

Tel. 025-224-5627 坂内佳子

<https://www.ryutopia.or.jp/>

Noism Company Niigata 20 周年記念公演「Amomentof」

2004年に日本初の公共劇場専属舞踊団として、りゅーとぴあで誕生し、“新潟から世界へ”発信してきたNoismの20周年記念公演。この20年、芸術総監督・金森穰にとってはまさに一瞬(A moment of)であったという実感などから名付けられた新作を上演する。金森とNoism国際・地域各部門芸術監督の井関佐和子、山田勇気の3人によるNoism0、プロフェッショナルカンパニーNoism1、研修生が所属するNoism2の総出演で、築いてきた歴史とともに100年先の劇場文化を目指す現在地を示す。

〔日程〕6月28日～30日

〔会場〕りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

●福井県福井市

福井県文化振興事業団

〒918-8152 福井市今市町40-1-1

Tel. 0776-38-8288 塚崎

<https://www.hhf.jp/>

Organ 20th Anniversary with 山本真希 ハーモニーびくにつく ～はじめてきたよ この場所に～

子どもたちにクラシック音楽のコンサート鑑賞マナーを身に付けてもらうことを目的に、2011年にスタートしたオリジナル人気教育プログラム「ハーモニーびくにつく」。少しくらい泣いたりぐずったりしても大丈夫な環境でのコンサート鑑賞の機会を提供する。初回からフィーチャーしてきたパイプオルガンも設置20周年の節目を迎え、今回も家族で楽しめるクラシック音楽の魅力を届ける。

〔日程〕7月7日

〔会場〕ハーモニーホールふくい

●長野県伊那市

長野県伊那文化会館

〒396-0026 伊那市西町5776

Tel. 0265-73-8822 山田 敦子

<https://inabun.jp/>

—團伊玖磨生誕100年— 市民オペラ『夕鶴』

演出に奥村啓吾、指揮者に横山奏を迎え、伊那市を拠点に活動している伊那フィルハーモニー交響楽団といな少年少女合唱団が共同でつくり上げる市民オペラ。プロとの共同制作により、アマチュア団体が更なる自信をつけ、地域における芸術振興の担い手となることを期待する。また、市内の希望する小学校で『夕鶴』の読み聞かせアウトリーチを実施することで、公演に足を運んでもらうきっかけとしている。

〔日程〕6月30日

〔会場〕長野県伊那文化会館

●長野県茅野市

茅野市美術館

〒391-0002 茅野市塚原1-1-1

Tel. 0266-82-8222 中田麻衣子

<http://www.chinoshiminkan.jp/>

生誕110年 矢崎博信

—シュルレアリスムがみせる夢

今年で生誕110年を迎える茅野市出身の洋画家・矢崎博信。帝國美術学校(現武蔵野美術大学)在学中、小山田二郎らと日本のシュルレアリスム(超現実主義)を標榜した前衛美術グループ「L'anima (アニマ)」を結成し、自らの生きる現実世界に幻想を重ね合わせるような作風を見出した。本展では収蔵作品の中から、29年という短い生涯のなかで制作した、折々に変化していく36点を紹介する。

〔日程〕4月11日～7月7日

〔会場〕茅野市美術館



矢崎博信《農夫働くの図》
(1939年/茅野市美術館蔵)

●静岡市

静岡市美術館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

Tel. 054-273-1515 太田紗世

<https://shizubi.jp/>

没後35周年記念 平野富山展 —平櫛田中と歩んだ彩色木彫、 追求の軌跡

静岡ゆかりの彫刻家・平野富山(ひらのふざん/1911～89)の初の回顧展。近代日本における人形、彩色木彫、西洋彫刻という三つの領域を横断し、彩色の専門家としても作家を支えた富山の彩色木彫や西洋彫刻など約60点のほか、平櫛田中や関連作家らの作品約40点を展示。さまざまな角度から富山の世界を堪能し、その仕事の全容に迫ることができる。

〔日程〕6月6日～7月15日

〔会場〕静岡市美術館

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●名古屋市

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄
2-17-25

Tel. 052-212-0001 竹葉・清家
<https://art-museum.city.nagoya.jp/>

特別展「吉本作次 絵画の道行き」

東海地方を拠点に活動する画家・吉本作次の回顧展。初期には力強い筆触と重厚な質感、グラフィカルなイメージや浮遊するような形態が展開する大画面の作品で注目された。その後、西欧や中国の絵画から筆法などを貪欲に学び、新たな表現を探究し続ける。本展では約200点の作品により、日本の現代絵画を知る上で不可欠な画家の「道行き」をたどる。作家本人による記念講演会や子ども鑑賞会なども行われる。

[日程] 4月6日～6月9日

[会場] 名古屋市美術館

●愛知県清須市

清須市はるひ美術館

〒452-0961 清須市春日夢の森1

Tel. 052-401-3881 奥村綾乃
<https://www.museum-kiyosu.jp/>

今尾拓真 work with #10 (清須市はるひ美術館 空調設備)

既存の空間やシステムに介入し、その在り方を一時的に変容させる作品を生み出す今尾拓真(1992～)。当館が、全体が湾曲する空間に空調設備をあえて露



展示の様子

出させたデザインであることに注目し、館をまるごとひとつのインスタレーション作品として構成。建物の既存の空調機器に取り付けたりコーダーとハーモニカが空調の風圧で重層的に鳴り響き、“この場”でしか体験できない感覚を味わうことができる。

[日程] 4月27日～6月2日

[会場] 清須市はるひ美術館

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立美術館

〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1740-1

Tel. 077-543-2111 山田・小松
<https://www.shigamuseum.jp/>

つくる冒険 日本のアール・ブリュット45人

「生(なま)の芸術」と訳されてきたアール・ブリュット。本展では45人の日本のつくり手による、日本のアール・ブリュットを代表する作品約450点を展示。展示室内では、つくり手の制作風景をとらえた映像が公開されるほか、展示室前には、つくり手の表現を迫体験できるようなワークショップコーナーも設置。また、会期中の毎週土曜日には担当学芸員によるギャラリートークが行われるなど、展覧会をより楽しめるようなイベントも開催。

[日程] 4月20日～6月23日

[会場] 滋賀県立美術館

●大阪府高槻市

高槻市文化スポーツ振興事業団
〒569-0077 高槻市野見町6-8

Tel. 072-671-9999 大倉憲斗
<https://www.takatsuki-bsj.jp/tat/>

高槻de演劇2024

高槻市を拠点とする市民劇団の育成を目的に、前身である高槻現代劇場時代から10年以上取り組む市民劇のフェスティバル「高槻de演劇」。今回は、シニ

ア劇団3劇団を含めた市民劇団6団体が3週にわたって作品を上演する。5月23日には関連事業として、参加団体の演出家・指導者と、全国シニア演劇大会を主催する鯨エマをパネリストに迎え、市民劇の魅力や地域文化に与える意義を語るシンポジウムも実施。

[日程] 5月23日～7月7日

[会場] 高槻城公園芸術文化劇場



昨年の公演より 高槻シニア劇団 千年団
『みんなでチューホフ』

●大阪府能勢町

能勢人形浄瑠璃実行委員会

〒563-0341 豊能郡能勢町宿野30

Tel. 072-734-3241 乾はるな
<https://www.jyoruri.jp/>

2024年6月能勢浄るり月間 能勢人形浄瑠璃鹿角座公演

能勢人形浄瑠璃は、200年以上の歴史を持つ能勢の浄瑠璃(太夫と三味線の素浄瑠璃)に人形と囃子を加え1998年にデビューした。2006年に劇団化し、地域の住民らで活動を続けている「鹿角座」の定期公演。今回はオリジナル演目『能勢三番叟』と、鹿角座では初上演となる『二人禿』に子どもたちが挑戦するほか、古典演目『日高川入相花王』と9年ぶりの再演となるオリジナル演目『名月乗桂木』の上演も。

[日程] 6月29日、30日

[会場] 浄るりシアター

●兵庫県芦屋市

芦屋市立美術館

〒659-0052 芦屋市伊勢町12-25

Tel. 0797-38-5432 川原百合恵

<https://ashiya-museum.jp/>

アプローチ! アーティストに学ぶ 世界のみかた

芦屋市立美術博物館が所蔵する植松奎二や中川佳宣をはじめとした現代作家14名の絵画、立体、写真といった多彩な表現の作品65点を展観。世界にあふれる物事に対するアーティストたち独自の視点とアプローチの手法を紹介し、アーティスト像に迫る。芦屋発祥の前衛美術グループ「具体美術協会」の歴史を振り返る特集、「具体美術協会/芦屋」も同時開催。

[日程] 4月13日～6月9日

[会場] 芦屋市立美術博物館

●奈良県斑鳩町

斑鳩町文化振興財団

〒636-0123 生駒郡斑鳩町興留10-6-43

Tel. 0745-75-7743 富田真広
<https://www.town.ikaruga.nara.jp/ikaho/>

いかるが吹奏楽フェスティバル 2024

1998年から開催し26回目となる恒例のフェスティバル。地元で活動する斑鳩シンフォニック・バンドのほか、斑鳩中学校、斑鳩南中学校、法隆寺国際高等学校の吹奏楽部、小学生で構成されるいかるがジュニア金管バンドの町内5団体が出演する。団体ごとの演奏のほか、フィナーレは、コロナ禍を経て昨年5年ぶりに復活した総勢約100名による迫力ある合同演奏で締めくくる。

[日程] 7月14日

[会場] いかるがホール

●和歌山県和歌山市

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14

Tel. 073-436-8690 奥村泰彦
<https://www.momaw.jp/>

Topics

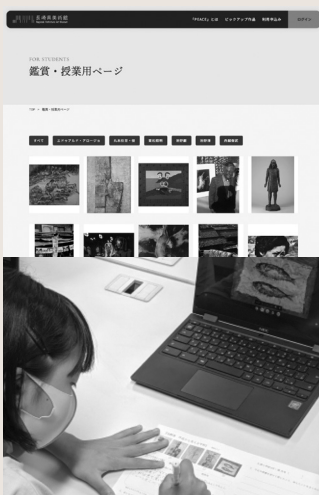
先生のための鑑賞教育×平和教育プラットフォーム「PEACE」

長崎県美術館を中核館とする「学校とミュージアムの共創—平和教育と鑑賞プログラムの開発・活用」プロジェクトで開発した鑑賞ツールのプラットフォーム「PEACE (Peace Education through Art Content Explorer)」がリリースされた。

作品と向き合い、自身の考えを整理し他者と伝えあう鑑賞が、学習者の自我理解、作品の歴史的な背景だけでなく、自身の身近な世界との関連にまで思いを馳せる未来志向の学びにつながると考え、平和教育が求める「仲間意識」や「人権意識」の醸成に作用することを期待し、3年にわたってプロジェクトに取り組んできた。現在、長崎県美術館所蔵作家5組の作品について多様な授業案や関連資料、作品の高精細画像のほか、実際の授業で活用したレポートも公開している。保育園から大学までさまざまな教育現場の先生がお互いの実践を参考にしながら活用でき、学習者は地理的、時間的な障壁を越えていつでもどこからでも作品と出会うことができる。

今後もコンテンツを充実させ平和教育への活用に取り組むとともに、遠隔地の学校を含め、さまざまな理由で来館が困難な子どもたちなど新しい美術館活用の可能性を模索していく。

【問い合わせ】長崎県美術館
Tel. 095-833-2110
<https://tool.npam-edu.jp/>



土が開いた現代 革新するやきもの

現代陶芸の収集に力を入れてきた和歌山県立近代美術館の収蔵作品を生かした展覧会。その始まりから現在まで、従来の茶碗や花瓶といった実用のための陶器から独立した現代陶芸が開拓してきた70年以上の歴史を追って、個々の作家の様々な表現について一堂に紹介。同美術館に所蔵されている、新しい表現を生み出し世代を継いで創作を続けてきた作家たちのやきもの作品を中心に、約100点を展示する。

【日程】4月27日～6月30日
【会場】和歌山県立近代美術館

中国・四国

●島根県益田市

しまね文化振興財団
〒698-0022 益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1860 曳野渚
<https://www.grandtoit.jp/>

MUSEUM×THEATER ミュージア vol.22「美しい暮らし、明日へのメロディー」

全国でも珍しい劇場と美術館の複合施設であるグラントワの特性を生かした、美術と舞台芸術の融合企画「ミュージア」。第22弾は石見美術館の企画展「111年目の中原淳一」(4月20日～6月17日)の関連企画として、イラストやファッション、デザインなど多彩な仕事で知られる中原淳

一(1913～83)の作品や生き方からインスピレーションを受けたステージが展開される音楽会。クロマチック・アコーディオンの演奏にギターの調べとヒューマンビートボックスのリズムが加わり、過去から現代、そして未来へと続くようなステージを楽しめる。

【日程】6月2日
【会場】島根県芸術文化センター「グラントワ」

●広島市

広島市現代美術館
〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1
Tel. 082-264-1121 国広詞恵
<https://www.hiroshima-moca.jp/>

崇高さに関する抽象的な覚書

本展は、アーティストの田口和奈が着想し、松原壮志朗が構成を担当するグループショー。アメリカの詩人ジョアン・カイガー(1934～2017)による生涯唯一のビデオ作品《デカルト》と彼女のストーリーを骨子とし、「近代美術」や「現代美術」といったカテゴリーの垣根を越え、展覧会という枠組みを用いて抽象的考察を行う。会期中の土・日・祝祭日は、アートナビゲーターによる展示解説ツアーも実施。
【日程】3月30日～6月9日
【会場】広島市現代美術館

●広島県呉市

呉市文化振興財団
〒737-0051 呉市中央3-10-1
Tel. 0823-25-7878 塩谷・片岡
<https://www.kure-bunka.jp/>

～弦楽アンサンブル・フルート・チェンバロで奏でるバロックの響き～

バロック期になくなくてはならない楽器として活躍したチェンバロが呉信用金庫ホールに寄贈されて今年で10年となる。今回のコンサートでは、この10年間にアー

トサロンでチェンバロ奏者・小田郁枝と共演したフルート、チェロ、ヴァイオリンの奏者や弦楽アンサンブルとともに、世間によく知られているバロックの名曲を、ソロと豪華メンバーの演奏でお楽しみいただく。

【日程】7月15日
【会場】呉信用金庫ホール



2022年のアートサロン。チェンバロが生まれたヨーロッパを、ソロ演奏や連弾そして2台チェンバロでめぐる

●広島県廿日市市

廿日市市芸術文化振興事業団
〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1
Tel. 0829-20-0111 田中仁
<https://www.hatsukaichi-csa.net/sakurapia/>

はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”演奏会2024

はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”は、はつかいち文化ホールを拠点に演奏活動を行うプロアンサンブルとして2020年4月に発足。普段は学校訪問コンサートやジュニア弦楽合奏団への指導など、地域に根差した活動を行っている。昨年の演奏会に続き、国際的なヴァイオリニストである前東京藝術大学学長の澤和樹を指揮・独奏に迎え、弦楽合奏の名曲を演奏する。
【日程】6月8日
【会場】はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ

●徳島県徳島市

徳島県立近代美術館
〒770-8070 徳島市八万町向寺山(文化の森総合公園内)
Tel. 088-668-1088 久米千裕

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

<https://art.bunmori.tokushima.jp/>

特別展「ユーモアおかしみの表現に潜むもの」

「ユーモア」とは、「上品な洒落やおかしみ」「諧謔(かいぎやく)」のこと。本展では、当美術館が所蔵する多くの作品の魅力を伝えるため、所蔵作品を中心にユーモアあふれる作品を紹介。単に作品の見た目の面白おかしさだけでなく、社会問題に対する批判的な視点、一人の作家の深い思考など、“不真面目”な見た目の皮をかぶった作品に潜む“大真面目”な一面を感じることができる。

[日程] 4月27日～6月30日

[会場] 徳島県立近代美術館



菊畑茂久馬《林橋と三角錐》(徳島県立近代美術館蔵)

九州・沖縄

●福岡市

KYNE展実行委員会

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6(福岡市美術館内)

Tel. 092-714-6051 岩永・忠

<https://www.fukuoka-art-museum.jp/>

ADAPTATION - KYNE

福岡を拠点とするアーティストKYNE(キネ)の国内初となる大規模個展。KYNEの作品は、大学時代に学んだ日本画や1980年代の漫画やレコードのジャケットなど、さまざまなエッセンスの組み合わせから生まれるもので、国内外問わず大きな注目を集めている。本展では、巨大

な新作壁画のほか、絵画、版画、ライトボックス、立体、ドローイングなど過去作から最新作まで約200点を展示し、KYNEの魅力を探る。

[日程] 4月20日～6月30日

[会場] 福岡市美術館

●北九州市

北九州市立響ホール

〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1(国際村交流センター内)

Tel. 093-663-6661 由元菜々子

<https://www.hibiki-hall.jp/>

0才からの音楽会～オーケストラとおおきなかぶとむし～

0歳から鑑賞できる人気のコンサート。脚本・演出に泊篤志(飛ぶ劇場)を迎え、竹内健人による指揮、響ホール室内合奏団の演奏で、クラシック音楽から映画音楽・手あそび歌など家族で楽しめる楽曲を、絵本を題材にしたオリジナルストーリーに乗せてお届けする。ベビーカー置き場やおむつ替え・授乳スペースのほか、託児やお迎えジャンボタクシーのサービスも有り。

[日程] 6月8日、9日

[会場] 北九州市立響ホール

●福岡県久留米市

久留米市美術館

〒839-0862 久留米市野中町1015

Tel. 0942-39-1131 森智志

<https://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/>

ちくごist 尾花成春

青木繁や坂本繁二郎を育んだ久留米および筑後の地にゆかりのある作家を紹介する「ちくごist」シリーズの第1弾として、現在の福岡県うきは市に生まれた画家・尾花成春(1926～2016)の作品を、初めて描いた油絵から絶筆まで約100点を展示。公立美術館での大規模な回顧展は本展が初めてとなる。筑後で

制作することにこだわり、常に変化を求め続けた尾花成春の画業をたどる。

[日程] 4月20日～7月7日

[会場] 久留米市美術館

●佐賀県佐賀市

佐賀県立美術館

〒840-0041 佐賀市城内1-15-23

Tel. 0952-24-3947 岩永亜季

<https://saga-museum.jp/museum/>

OKADA-ROOM vol.30

「画家の住む場所・描く場所」

佐賀県出身の日本近代洋画家・岡田三郎助を紹介する常設展示室「OKADA-ROOM」。岡田が東京・恵比寿に構えていたアトリエは、作品制作の場であるのみならず、美しいものを集め、芸術を語り合い、教育を行った場であり、こうした在り方からは、芸術家としての暮らしや、どのような芸術家でありたかったかが垣間見られる。今回は、アトリエに関わる作品の展示と、アトリエに残されていた16mmフィルムを再編した動画を紹介する。

[日程] 2月29日～6月16日

[会場] 佐賀県立美術館

●熊本県荒尾市

荒尾総合文化センター

〒864-0041 荒尾市荒尾4186-19

Tel. 0968-66-4111 松岡優子

<https://www.city.arao.lg.jp/0/8358.html>

動く朗読劇 カウンティング&クラッキング

荒尾干潟に立ち寄る水鳥のようにアーティストが荒尾に立ち寄り、そこで生き、英気を養い、それぞれの土地へ帰っていく様子をイメージした「WATARIDORIクリエイションシリーズ」の第1弾。西シドニー在住のS・シャクティダランの戯曲『カウンティング&

クラッキング』を佐和田敬司翻訳、和田喜夫演出により、九州各地から集まった計24名の俳優・ミュージシャンが朗読劇として上演する。

[日程] 6月29日、30日

[会場] 荒尾総合文化センター

●熊本県宇城市

宇城市不知火美術館

〒869-0552 宇城市不知火町高良2352

Tel. 0964-32-6222 藤田香奈子

<https://www.museum-library-uki.jp/>

マナブ間部生誕100周年記念 マナブマベ・ツナグ展—感じてみよう! ブラジルで生まれたカラフルな世界—

今年で生誕100周年を迎える、不知火町出身ブラジル育ちの抽象画家・マナブ間部(1924～97)の展覧会。「日本とブラジルの芸術の懸け橋になりたい」という間部の想いにちなんで、テーマを「カラー」「懸け橋」として、収蔵品約50点を展示。間部の作品からインスピレーションを受けた美術家・レインボー岡山が展示室を7色に染め上げ、間部と来場者をつなぐ“架け橋”としてつくり上げた空間も併せて楽しむことができる。

[日程] 4月13日～6月16日

[会場] 宇城市不知火美術館

夏休み子ども企画／フェスティバル情報 求む!

7月号(6月25日発行予定)では恒例の「夏休み子ども企画／フェスティバル特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4093

Fax. 03-5573-4060

letter@jafra.or.jp

締め切り: 6月3日(月)

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

大阪府茨木市

茨木市文化・子育て複合施設おにクル ベビー&キッズシアターフェス



上：おにクル外観
下：劇団CORPUS「ひつじ」

●茨木市文化・子育て複合施設おにクル
[所在地]〒567-0888 大阪府茨木市駅前3-9-45 <https://www.onikuru.jp/>
[開館]2023年11月26日
(大ホールは24年4月21日開場)
[構造]地上7階鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造/延床面積19,715.22㎡)
[主な施設]大ホール(1,201席)、多目的ホール(245席)、リハーサル室、多目的スタジオ、音響映像制作室、会議室・和室、図書館、こども支援センター、市民活動センター、市民交流スペース、プラネタリウム、屋内こども広場、えほんひろば・おはなしのいえ、コワーキングスペース、屋上広場ほか(※施設愛称の「おにクル」は茨木市の鬼のキャラクター「いばらき童子」から公募で命名)

●ベビー&キッズシアターフェス
[会期]2024年4月28日
[主催](公財)茨木市文化振興財団
[出演]クロワッサンサーカス、劇団CORPUS、シルヴブレ、りずむらいす、おんぶらんど、HOOPER MAEP
※各30分、会場を変えて2回公演。クロワッサンサーカス(40分)のみ要予約。

*「各年代×10人」などの無作為抽出と、旧市民会館の利用団体などの関係者、計100人の市民を10グループに分け、市長が直接対話し、思いを聞いた。

昨年11月に誕生し、ゴールデンウィーク期間中に来場者数80万人を突破した茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」。4月28日には全館を使った無料の「ベビー&キッズシアターフェス」(主催：茨木市文化振興財団)も催され、ベビーカーを押した親子連れなどで賑わった。

おにクルは、旧市民会館(2015年12月閉館)の建て替えにあたり、福祉文化会館(今年5月貸館業務終了)、中条図書館(昨年8月閉鎖)など分散していた文化や子育て支援などの機能を集約して新たに構想した集約型文化交流施設。芝生広場から大屋根広場、平土間の多目的ホールと一体化したエントランスに始まり、吹き抜けのエスカレーターで子育て施設や図書館、大ホール、市民活動センター、最上階のプラネタリウムまでが緩やかに繋がっている(伊東豊雄設計)。フェスに合わせて、話題のおにクル取材した。

エントランスなど交流スペースは飲食自由。フェスでは、カナダの劇団CORPUSが演者が羊になり切ってパフォーマンスする『ひつじ』を芝生広場で上演したのをはじめ、コミカルなパークッションショーで沸かせたりずむらいすやパントマイムなど多彩な催しを実施。4月21日に開場したばかりの大ホールでは、舞台上に設置した特設舞台で綱渡りや空中エアリアルなどを見せるクロワッサンサーカスのショーが行われた。

おにクルはどのようにして構想されたのだろうか？ 茨木市は大阪市と京都市という大都市の中間に位置する人口28万人のベッドタウン。旧市民会館は、JR茨木駅と阪急茨木市駅の中間(それぞれ徒歩15分)、市役所や福祉文化会館、市民総合センター(クリエイトセンター)、グラウンドなどが集まる市中心部に位置していた。2016年に就任した福岡洋一市長は周辺整備も含めた市民会館跡地エリアの再整備に乗り出す。

市民会館跡地活用推進課では、「市民との直接対話」を掲げる市長が車座で話し合う「市民会館100人会議」(*)を皮切りに、16年～23年に108回、延べ2,217人の市民と共に計5,500

時間の対話とワークショップを重ねたという。

市民の発表の場だった市民会館のホール機能を求める声はもちろん、子どもが遊べる施設、カフェなどを求める声が上がった。市民会館跡地を含む市中心部をパーク化し、市民が日常的に集える憩いの場にしたいというグランドデザインを描いていた市では、市民の声と政策課題を擦り合わせ、公共施設のマネージメント的視点を加えて「憩い・交流・にぎわい」の拠点としておにクルの構想をまとめた。

当時からプロジェクトに携わってきた向田明弘共創推進課課長は、「多様な機能を担う複数の運営主体が同居しているため、管理運営が課題だった。そこで、全体を総括する部署として市民会館跡地活用推進課を引き継ぐ形で市民文化部に共創推進課を新設した」と話し、各施設機能の責任者層が集まる会議を月2度、庁内の関係する課や文化振興財団関係者などをメンバーにした企画・連携、広報、サービスなど5つのユニットでの会議を月1～2度開催しているという。また、「跡地活用を形にしていくなか、既存の市民活動団体以外の市民にも数多く参加してもらった。共創推進課は市民活動支援も所管しており、開館後も市民が主体となる活動を、何よりも基本に運営していきたい」と話す。

一方、これまで市の文化振興を担い、旧市民会館も指定管理者として運営してきた文化振興財団の落合佳人事業統括は、「財団では自主事業として2019年からクリエイトセンターや市内各所で乳児、未就学児、児童向けの事業に積極的に取り組んできた。ベビー向けの事業はすぐに満員になる。今回のフェスではその蓄積を生かして企画をまとめた。おにクルではオープンしてから市民が次々と面白い企画を行っている。財団としてはそこに事業を集中するのではなく、アウトリーチ的な取り組みで市内全域に広げていくのが我々の役割だと考えている」と言う。

策定されたばかりの茨木市文化振興ビジョン(第2期)でも共創がうたわれ、そのシンボル施設としておにクルが位置付けられているが、おにクルの実験がどのような効果を生み出すのか、今後を注視したい。(田中健夫)